

- 問1 14世紀から16世紀にかけて、琉球王国は地理的な利点を活かして東アジアの交易で重要な役割を果たしました。中国から生糸や薬、茶などを仕入れて日本へ送り、逆に日本からは銀や海産物を仕入れて中国へ送ることで大きな利益を得ていた、このような貿易の形態を何といいますか。
(2024年 鳥取県公立入試 類似)
1. 南蛮貿易 2. 勘合貿易 3. 中継貿易 4. 朱印船貿易
- 問2 室町時代、足利義満が中国の明と行った公式な貿易において、正式な貿易船であることを証明するために「勘合」と呼ばれる札が使われました。この札を使用した主な目的として最も適切なものはどれですか。
(2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 朝鮮半島からの輸入品に税を課す基準とするため 2. 倭寇（海賊）による密貿易と区別するため 3. キリスト教の布教を制限し、貿易を管理するため 4. 幕府の許可を得た朱印船であることを示すため
- 問3 室町時代から戦国時代にかけての日本の対外関係について述べた次の説明のうち、当時の外交や交易の背景を正しく説明しているものはどれですか。なお、当時の状況を記録した資料には、武装して海賊行為を行う集団や、種子島への鉄砲伝来、砂鉄を用いた製鉄の様子などが記されています。
(2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 幕府は海賊行為を防ぐため、長崎に扇形の人工島である出島を築き、すべての外国船の出入りをそこで管理した。 2. 種子島に伝えられた鉄砲を国内で量産するため、日本は明から大量の砂鉄を輸入し、日本独自の製鉄技術である「たたら製鉄」を完成させた。 3. 倭寇の勢力を弱めるため、幕府は朝鮮半島の沿岸部へ直接軍隊を派遣し、現地の拠点に代官を置くことで支配を強めた。 4. 足利義満は、倭寇を鎮圧することを条件に、明の皇帝から日本国王として認められ、勘合貿易を開始した。
- 問4 室町時代に発達した「座」の仕組みと背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。
(2024年 愛媛県公立入試 類似)
1. 港や交通の要所に拠点を置き、全国から届く年貢や商品を保管し輸送することを目的とした。 2. 質草を担保にして武士や庶民に高利で資金を貸し付け、幕府の財政を支える有力な財源となった。 3. 幕府が直接管理する組織であり、城下町の整備や市場の税の徴収を主な役割とした。 4. 貴族や寺社に税を納める代わりに、他者の参入を防いで営業を独占する権利を認められた。
- 問5 日本の室町時代（14世紀～15世紀）における文化や国際情勢について述べた文として、正しいものはどれか。
(2019年 沖縄県公立入試 類似)
1. 琉球王国で「万国津梁の鐘」が作られた時期は、聖武天皇が東大寺の大仏を造立した時期と重なる。 2. 東大寺の大仏が建立された時期に、ヨーロッパではルネサンスが興り、ポッティチェリが活躍した。 3. 足利義満による金閣の建立と、イタリアでのポッティチェリによる『春』の制作は、ほぼ同時代である。 4. 足利義満が金閣を建立した時期は、奈良時代と呼ばれ、聖武天皇が仏教による国づくりを進めていた。
- 問6 室町時代の農業について述べた文として、当時の食料生産の実態を正しく表しているものはどれか。
(2022年 岐阜県公立入試 類似)
1. 灌漑施設の整備が進んだことで、一年のうちに同じ田で米を2回作る二作作が全国で一般化した。 2. 同じ田で夏に米を、冬に麦を育てる二毛作が広がり、人々の食生活を支えた。 3. 大陸から伝わったサツマイモが凶作に備える救荒作物として全国の田畑で栽培された。 4. 商品作物の栽培が中心となり、米や麦の代わりに茶や桑のみを専門に育てる農家が急増した。
- 問7 中世の日本における経済活動について述べた次の文の（ ）に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものはどれですか。「当時の様子を記した資料には、毎月決められた日に（ a ）が開かれている様子や、民衆の生活の中で（ b ）が取引の手段として定着している状況が記されている。」
(2022年 奈良県公立入試 類似)
1. a：楽市 b：米 2. a：定期市 b：貨幣 3. a：問丸 b：貨幣 4. a：定期市 b：布
- 問8 山城国一揆において、地域の武士や農民が守護大名を追放した後に成立した「自治」の仕組みや目的について述べた文として、背景を含めて正しく説明しているものはどれですか。
(2022年 愛媛県公立入試 類似)
1. 戦乱によって荒廃した地域を立て直すため、身分を超えて団結し、集会を通じて裁判や徴税を自ら運営した。 2. 海外との貿易権を独占するために有力な商人たちが都市を形成し、堺のような自由都市の運営を目指した。 3. キリスト教の信仰を軸として領土の圧政に抵抗し、信者同士の平等な共同体を築くことを目的とした。 4. 幕府の命令に従わない守護大名を処罰するため、將軍の許可を得て一時的に地域の統治権を代行した。
- 問9 マルコ・ポーロが著書の中で日本を「黄金の国」と紹介したことが、後の世界の歴史に与えた影響として最も適切な説明を次から選びなさい。
(2024年 愛媛県公立入試 類似)
1. ルターによる宗教改革を促し、キリスト教の教義がヨーロッパ全域で見直されることとなった。 2. 大航海時代の航海者たちが、東洋を目指して海へ乗り出す大きな動機の一つとなった。 3. ナポレオンによる遠征を後押しし、ヨーロッパ諸国の国境線が大きく変化することとなった。 4. 十字軍の遠征が始まる直接的なきっかけとなり、聖地エルサレムの奪還が進められた。
- 問10 室町時代、蓮如の布教によって北陸や近畿地方の農民たちに広く浸透した浄土真宗（一向宗）の門徒たちが、宗教的な結束を背景に、守護などの支配に対して組織的に抵抗した武力蜂起を何と呼びますか。
(2016年 長野県公立入試 類似)
1. 島原・天草一揆 2. 一向一揆 3. 土一揆 4. 国一揆
- 問11 室町時代初期において、三代將軍の足利義満が有力な守護を次々と討伐した背景には、幕府の権威を確立しようとする意図がありました。幕府がこのような守護への統制を行った最大の目的として、最も適切な説明はどれか。
(2025年 静岡県公立入試 類似)
1. 有力な守護が海外貿易の権利を独占させ、その利益を幕府が徴収することで、幕府の財政基盤を安定させるため。 2. 守護の持つ軍勢力を解体し、公家による律令国家の仕組みを復活させて、中央集権的な政治体制を築くため。 3. 守護を各地の国司の下に配置し直し、土地の支配権を幕府から朝廷へと返還する手続きを円滑に進めるため。 4. 内乱を未然に防ぐとともに、各地で強大な勢力を持つ守護を幕府の体制に協力させ、將軍の支配力を高めるため。
- 問12 室町時代に足利義満が始めた明との貿易では、「勘合」と呼ばれる札が使用されました。この「勘合」を用いた主な目的として、最も適切な説明はどれかを選びなさい。
(2016年 岐阜県公立入試 類似)
1. ポルトガル船との交易を奨励し、南蛮文化を積極的に取り入れるため 2. 正式な貿易船と、当時沿岸部で活動していた倭寇などの海賊船を区別するため 3. オランダ船の来航を特定の港に制限し、貿易を幕府の管理下に置くため 4. キリスト教の宣教師が貿易船に紛れて入国するのを防ぐため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中継貿易	琉球王国は、自国の産物だけでなく、他国から輸入した商品をさらに別の国へ輸出することで利益を上げました。当時の東アジアにおいて、中国（明）と日本などの国々の間に入り、物資の橋渡しをする役割を担っていたことがこの名称の由来です。
問2	答え 2 倭寇（海賊）による密貿易と区別するため	足利義満は明の皇帝から「日本国王」としての地位を認められ、公式な貿易を開始しました。当時、中国沿岸などで略奪を行っていた倭寇と、幕府が公認した正式な貿易船を明確に見分ける必要があったため、勘合という割符を合わせる仕組みが導入されました。このため、この貿易は勘合貿易（日明貿易）と呼ばれます。
問3	答え 4 足利義満は、倭寇を鎮圧することを条件に、明の皇帝から日本国王として認められ、勘合貿易を開始した。	室町幕府の足利義満は、明の皇帝に対して臣下の礼をとることで「日本国王」に封じられ、倭寇の取り締まりを約束したことで正式な国交（勘合貿易）が成立しました。選択肢にある「出島」は、江戸時代にオランダや中国との貿易を制限するために長崎に作られたものであり、この時代の記述としては誤りです。また、鉄砲は1543年に種子島へ伝来し、その後の戦国大名の戦術に大きな影響を与えましたが、砂鉄を用いた「たたら製鉄」自体はそれ以前から日本国内で行われていた伝統技術です。
問4	答え 4 貴族や寺社に税を納める代わりに、他者の参入を防いで営業を独占する権利を認められた。	中世の経済において、「座」は特定の権力者に経済的な利益（税）を差し出すことで、その見返りとして営業上の特権や、関所の通行税免除などの権利を獲得していました。この独占的な体制は、後に織田信長らが「楽市・楽座」によって座の特権を廃止し、商業を自由化するまで続けました。
問5	答え 3 足利義満による金閣の建立と、イタリアでのボッティチェリによる『春』の制作は、ほぼ同時代である。	14世紀から15世紀は、日本では室町幕府が安定し、足利義満が金閣（鹿苑寺）を建立した時期にあたる。世界に目を向けると、この時期のヨーロッパでは古代ギリシャ・ローマの文化を再生しようとするルネサンスが広まっており、ボッティチェリなどの芸術家が活躍した。一方で、東大寺の大仏や聖武天皇の治世は8世紀の奈良時代の出来事であり、室町時代の文化とは明確に区別する必要がある。
問6	答え 2 同じ田で夏に米を、冬に麦を育てる二毛作が広がり、人々の食生活を支えた。	室町時代の農業の大きな特徴は、米の裏作として麦を育てる二毛作が広く普及したことです。これにより土地の利用効率が高まり、生産量が増加しました。サツマイモの普及は江戸時代中期以降の出来事です。
問7	答え 2 a：定期市 b：貨幣	鎌倉時代には月に3回、室町時代には月に6回といったように、決まった日に開かれる市場を定期市と呼びます。この時代には中国から輸入された貨幣（渡来銭）が大量に流通しており、市場での取引は物々交換ではなく貨幣を用いて行われるのが一般的になっていました。「楽市」は織田信長などの戦国大名による自由貿易政策、「問丸」は運送業者を指すため、文脈に合いません。
問8	答え 1 戦乱によって荒廃した地域を立て直すため、身分を超えて団結し、集会を通じて裁判や徴税を自ら運営した。	山城国一揆の最大の特徴は、守護大名という外部勢力の介入を拒絶し、地域の武士や農民が自らの手で平和と秩序を維持しようとした点にあります。彼らは「三十六人衆」と呼ばれる代表者を選び、自分たちで掟（法）を定め、裁判や税の管理を行うなど、国家の機能を地域住民が代替する「自治」を行いました。これは室町時代後半の自立的な社会構造の変化を示しています。
問9	答え 2 大航海時代の航海者たちが、東洋を目指して海へ乗り出す大きな動機の一つとなった。	マルコ・ポーロによる「黄金の国ジバング」の記述は、当時のヨーロッパ人の間に東洋に対する幻想的なイメージを植え付けました。これが、15世紀末から始まる大航海時代において、コロンブスがジバングを目指して大西洋を渡る決断をするなど、未知の航路を開拓しようとする人々の情熱をかき立てる重要な背景となりました。
問10	答え 2 一向一揆	浄土真宗（一向宗）の門徒が団結して起こした武力蜂起を一向一揆といいます。農民だけでなく地侍（在地領主）も加わり、室町幕府や諸大名の支配を脅かすほどの強力な勢力となりました。借金の帳消しを求める「土一揆」や、国人を中心とした「国一揆」と区別して覚える必要があります。
問11	答え 4 内乱を未然に防ぐとともに、各地で強大な勢力を持つ守護を幕府の体制に協力させ、将軍の支配力を高めるため。	室町幕府の成立当初は南北朝の動乱が続いており、将軍の権力基盤は極めて不安定でした。山名氏や大内氏のように複数の国を支配する有力な守護は、時として幕府を脅かす存在となりました。足利義満は、明徳の乱や応永の乱などを通じてこれら有力守護の勢力を削減することで、幕府内部での内乱を防ぎ、守護を幕府の統制下に置くことに注力しました。これにより、各地の守護が幕府の秩序に従い協力する体制を築き、将軍を中心とした安定的な統治を目指しました。
問12	答え 2 正式な貿易船と、当時沿岸部で活動していた倭寇などの海賊船を区別するため	足利義満は明の皇帝から「日本国王」としての封じられ、朝貢という形式で貿易を行いました。この際、明の正式な貿易船であることを証明し、当時私的な交易や略奪を行っていた倭寇と区別するために、勘合（勘合符）という割印のある札を照合させる仕組みがとられました。このため、日明貿易は勘合貿易とも呼ばれます。